

みんなの健康ラジオ

『甲状腺、副甲状腺について』

(2026年1月22日放送)

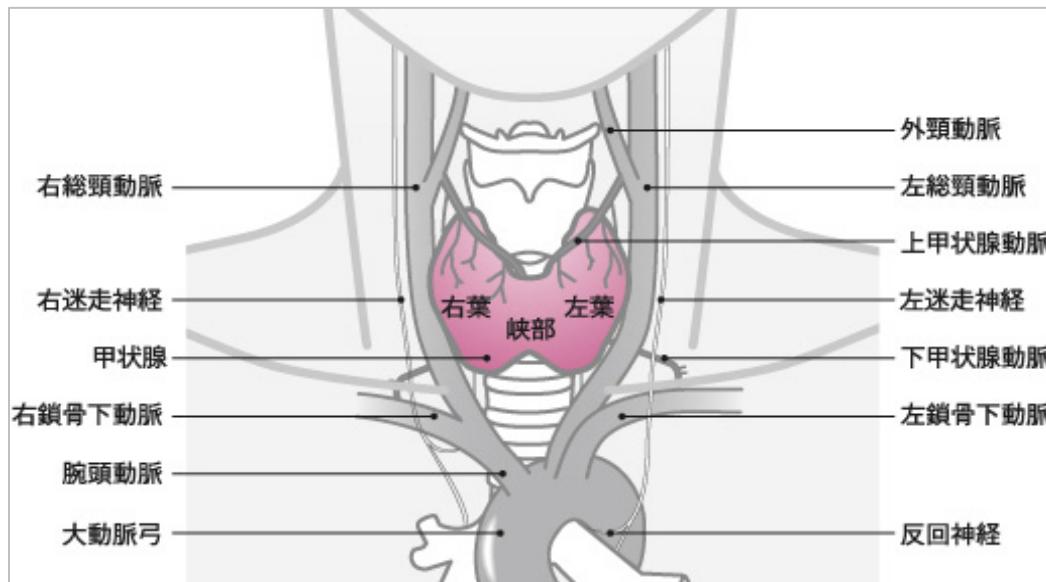
横浜市耳鼻咽喉科医会

横浜市立病院

塩野 理

甲状腺ってどんなもの？

- 甲状腺は、首の前側、のどぼとけの下、鎖骨の上にある、蝶々の羽のような形をした臓器
- 外から見てもわからないし、触ってあまりわからない
- 逆に、見てわかる、触ってわかる場合は腫れている状態
- のど仏や気管の軟骨と韌帯でくっついているため、飲み込んだ時に上下する

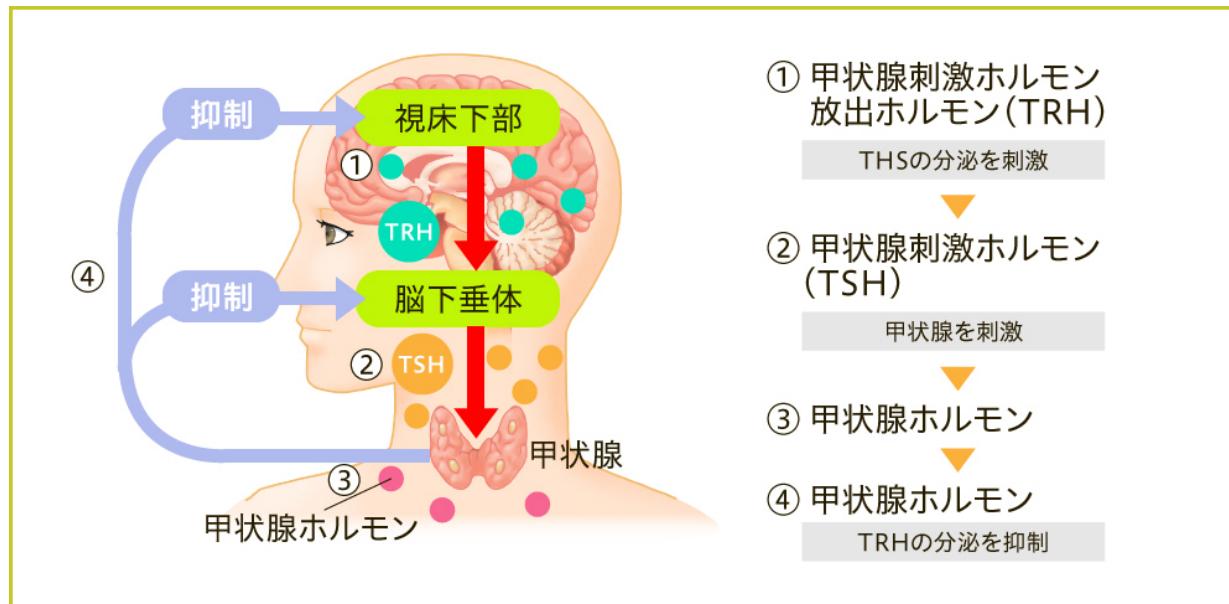


甲状腺の機能

- 新陳代謝に関するホルモンを作る場所
- 多すぎたり少なすぎたりすることで、倦怠感や気分の不調、動悸、不整脈、眼球突出、暑がりや寒がり、息切れ、手足のふるえやむくみ、体重の増減、女性なら月経異常など多様な症状が現れる
- 肝機能障害やコレステロールの異常、貧血、低ナトリウム血症、白血球減少、高血糖など血液検査での異常も生じることがある
- 甲状腺ホルモンは適切に保たれることが大切で、なくてはならないものである

甲状腺ホルモンの調節

- 甲状腺ホルモンは脳下垂体からの甲状腺刺激ホルモンにより調節される
- 甲状腺ホルモンが少ないときは刺激ホルモンが上昇し、多いときは減少する
- さらに甲状腺刺激ホルモンは、視床下部からの甲状腺刺激ホルモン放出ホルモンによって調節される



副甲状腺について

- 甲状腺は蝶々の羽のような形をした臓器であるが、甲状腺の裏に上下、左右合計4つの副甲状腺がある
- 副甲状腺はひとつの大きさが米粒程度、約5mm
- 超音波検査では正常な副甲状腺は小さくてわからないが、腫大した副甲状腺の腫瘍が見つかることがある
- 血液中のカルシウム濃度を調整している

副甲状腺について

- カルシウムのほとんどは骨や歯などの硬い組織にあり、血液中のカルシウムは微量
- 副甲状腺ホルモンやビタミンDが骨や腎臓に作用し、カルシウム濃度が厳密に調節される
- 骨や歯が大切なのはもちろんだが、筋肉が正常に動くときにもカルシウムが必要である

